

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ (GCBⅡ)						
科目名(英)	Global Citizen Basic Ⅱ						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高津原 直樹、小川 春美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのコミュニケーション技能を高めるために、マナーと協働についての知識を習得する。 ・授業内のグループ活動に臨み、場面に応じて自分の考えや意見を言語化できるようになる。 ・先人の生き方や人生への取り組み方について学び、人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		接遇の基本事項について学び実践できる。	
	○			○		チームワークとコミュニケーションについて説明できる。	
	○			○		言語聴覚士として、チームで働く際の役割について理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト 学校法人 麻生塾 GCBⅡ 志の教育 参考文献 ウィネット 2009 ケアコミュニケーション						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	好感・信頼感を高めるコミュニケーション				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	2	信頼感を高める非言語表現				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	3	肯定的な表現				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	4	敬意の種類と使い方				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	5	グローバルシティズンと志				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	6	自分を取りまく環境を知る(発表)				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	7	先人の生き方、人生への取り組み方を学ぶ				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	8	先人の志を学ぶ				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	9	自己を知る				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	10	私の志とは				テキストと授業資料のまとめを30分復習しておく。	
	11	志高く生きる				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始どきにおける振り返りスピーチに取り組む	
	12	共感と同情				テキストと講義資料にて30分復習。他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。	
	13	伝える力の実践(グループディスカッション)				テキストと講義資料にて29分復習。次回講義におけるスピーチに取り組む	
	14	伝える力の実践(発表)				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義における振り返りスピーチに取り組む	
	15	総合学習				授業資料のまとめを30分復習しておく。	
評価方法	(1)発表を2回実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	○		◎		80%
	発表	◎	○		◎		20%
履修上の注意							

科目名	英語表現						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐伯 洋子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	幅広い年齢層と接する際のコミュニケーションツールに歌を用いる事が出来る様に童謡・唱歌・抒情歌・懐メロ・ポップスを中心に歌唱練習。コミュニケーションゲームを授業の導入に使い、羞恥心を捨て・他人に優しい、気遣いの出来る神経を育てる。「わらべ歌」や「手話」を歌いながら手遊びする。呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学ぶ。自己アピール発表会の場を設け、クラス全体でプログラム作りから、企画・構成を考え、開催する。クラス全体のコミュニケーション作りも学ぶ。						
授業形式	講義:	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○	○		コミュニケーションツールとして歌を用いることを学び、歌唱について説明できる。	
		○	○	○		呼吸法やストレッチで体の筋肉の使い方を学び、歌唱を実践できる。	
			○	○		コミュニケーションツールとしての表現をプログラム、企画・構成し、発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:野ばら社 2007 のばら社編集部 日本のうた101 プラス6曲 参考文献:ドレミ出版2006 よしだ みほこ なかよしあそびうた、チャイルド社2008阿部 直美 指あそび手あそび123、民衆社2005 民衆社編集部 こどもの手話ソング集、野ばら社2010 のばら社編集部 美しき日本のうた						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介、腹式呼吸の説明・実施				呼吸法・ストレッチについて30分振り返り、調べておくこと。	
	2	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	3	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	4	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	5	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	6	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	7	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	8	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
	9	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				発表の内容について、30分確認し、個人、集団でアピールする内容を決めておく。	
	10	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	11	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	12	呼吸法・ストレッチ・コミュニケーションゲーム・歌唱				講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	13	自己アピール発表会				講義内容について30分振り返り、発表当日までの質問事項を整理しておくこと	
	14	呼吸法・ストレッチ テスト				講義内容について30分振り返り、確認しておく。	
15	まとめ				本日のまとめを受けて言語聴覚療法に活かしていけるようにまとめ復習をする		
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。(3)発表会を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	○		○	○		30%
	小テスト		○	○	○		20%
	発表			○	○		50%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English (Introduction to Medical English)						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	後藤 純子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	リハビリテーションにまつわる英語の語彙・文を広く学習し、全体的なリハビリ英語の基礎を学びます。その後言語聴覚的な領域に踏み込み、より実践に近い英語の語彙をインプット⇒グループ・ペアワークでのアウトプット練習を行います。特殊な語彙の習得と、活発なやり取りを通じ実践的な定着を狙います。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				特殊な医療英語と文法のインプット	
	○	○				インプットした医療英語と文法・会話のアウトプット	
	○	○				実践に即した場面練習においてロールプレイを臨場感を持って行う	
	○	○				インプット・アウトプットした医療英語・文法・会話の定着	
			○			積極的な実践ロールプレイへの参加、医療英語の暗記とテストへの準備	
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社 リハビリテーションの基礎英語 第三版 清水雅子						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション/自己紹介/授業の説明			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	2	Introduction: What is health?			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	3	Introduction: Exercise for everyone			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	4	Introduction: Overview of the body			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	5	Introduction: Exercise programs			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	6	Chapter I : What is rehabilitation?			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	7	Chapter I : Physical, Therapy and Physical Therapists			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	8	Chapter I : Occupational Therapy and occupational Therapists			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	9	Chapter I : Speech and language therapy and speech and language therapists			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	10	復習・進捗調整			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	11	Chapter II 前半			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	12	Chapter II 後半			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	13	Chapter IV 言語障害前半			既習事項の復習 単語テストへの準備		
	14	Chapter IV 言語障害後半			既習事項の復習 単語テストへの準備		
15	復習・進捗調整			既習事項の復習 単語テストへの準備			
評価方法	(1)2回目以降授業の中で小テスト(単語テスト)を毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)毎回の授業の積極性を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				30%
	小テスト	◎	◎				40%
	出席態度				◎		30%
履修上の注意							

科目名	保健体育(理論)						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉享子・八木智大		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	対人援助職を目指すものとして自己調整力の必要性を理解する。 危機管理の重要性について理解し、蘇生の基礎を体得する						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対人援助職である言語聴覚士を目指すにあたって、自立した生活を送ることができる。そのために必要なことを理解でき、自分の課題を把握できる	
	○	○				一般的な応急手当の実際について把握できる	
	○	○				観察のポイントについて理解し、問題点を見つけるきっかけを具体的にもつことができる	
テキスト・教材 参考図書	テキストは指定しない						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション/休養と睡眠と健康			授業内容を振り返り、自らの休養と睡眠の状態をレポートする(30分)		
	2	運動と健康			授業内容を振り返り、自らの健康維持のためのこころみについてレポートする(30分)		
	3	食事と健康			授業内容を振り返り、自らの食生活についてレポートする(30分)		
	4	ストレスの対処法			授業内容を振り返り、自らにあったストレス解消法についてレポートする(30分)		
	5	応急手当(福岡市 応急手当Web講習受講)			動画をみて内容の復習をする(1時間)		
	6	観察点のポイントを理解する(病院見学前に)			本日の資料を振り返る(30分)		
	7	観察点の確認・振り返り(病院見学後に)			事前にまとめておく。事後に、より深めるための調べ学習をする(1時間)		
	8	オリエンテーション(講義の進めかた)/発声発語や嚥下に関わる筋肉に触れるようになる。			講義概要について確認し、復習として授業で触れた筋肉を再度触れるようになっておく。(30分)		
	9	下顎や喉頭に関係する筋肉について説明できるようになる。			配布資料を使用し復習しておく(30分)		
	10	舌骨の働きについて説明できるようになる。			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)		
	11	舌骨を動かしている周囲の筋肉について説明できる。			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)		
	12	観察できるようになる①運動とは何か?			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)		
	13	観察できるようになる②呼吸に関わる筋肉について説明できる。			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)		
	14	観察できるようになる③様々な指標を活用できる。			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)		
15	医療従事者を目指す上で求められるコミュニケーションを会得する。インタビューを練習する。			配布資料を使用し復習しておく。レポートを作成する。(30分)			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○				50%
	課題・レポート				○		50%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	医療に携わる者は人体の構造を理解しておく事は重要である。人体を構成する器官系の 大要、特に言語聴覚士として理解が必要とされる構造を機能と関連付けて学習する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	骨・関節系の構造と名称を理解し、説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	神経の解剖的構造を理解し、説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	主な神経経路について理解し、説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	演習により骨形態と組織について理解できる。		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
テキスト・教材 参考図書	教科書:廣川書店 渡辺 正人 監修. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学(第4版)、メディカル・サイエンス・インターナショナル社 佐藤 達夫 訳. あたらしい人体解剖学アトラス. 参考文献:南江堂 相磯 貞和 訳. ネット解剖学アトラス(第5版)、南江堂 金子 丑之助 原著. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版)、南江堂 牛木 辰夫 著. 入門組織学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	骨格系演習①:総論、頭蓋、顔面の骨			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	2	骨格系演習②:脊柱、胸郭を構成する骨			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	3	骨格系演習③:上肢帯・上肢の骨、下肢帯・下肢の骨			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	4	関節・靭帯演習:関節の構造、主な関節・靭帯			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	5	筋系演習①:総論、頭蓋、顔面の筋			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	6	筋系演習②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	7	筋系演習③:体幹の筋、背部の筋			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	8	筋系演習④:上肢の筋、下肢の筋			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	9	神経解剖学演習①:中枢神経系(総論、髄膜、脳室、発生)			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	10	神経解剖学演習②:中枢神経系(脊髄、大脳)			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	11	神経解剖学演習③:中枢神経系(間脳・脳幹・小脳)			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	12	神経解剖学演習④:脊髄神経、脳神経			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	13	神経解剖学演習⑤:自立神経、伝導路			授業に該当する教科書の部分について20分程度復習すること		
	14	組織学演習			骨学実習に向け30分程度の復習をお願いします		
15	まとめ			本日のまとめの内容をもって国家試験対策を実施する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	生理学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	○	○			人体の各器官がどのように動き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる		
	○	○			人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。		
		○	○		生理学実験を行い実際の生理機能について学習する		
テキスト・教材 参考図書	運動・からだ図解 新板 生理学の基本 中島雅美監修 マイナビ出版 参考図書:コメディカルカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	筋肉・末梢神経			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	2	中枢神経系1(中枢神経)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	3	中枢神経系2(運動機能の調節)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	4	中枢神経系3(学習・記憶)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	5	中枢神経系(睡眠)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	6	感覚1(視覚)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	7	感覚2(視覚・聴覚)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	8	感覚3(聴覚・平衡感覚)			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	9	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)1			実験後、レポート作成する		
	10	実習 随意運動の反応時間(光・音刺激)2			実験後、レポート作成する		
	11	感覚4 体性感覚			授業に該当する教科書の部分について復習すること		
	12	実習 体性感覚1(2点識別・触圧覚)			実験後、レポート作成する		
	13	実習 体性感覚2(温度覚)			実験後、レポート作成する		
	14	自由テーマ					
15	自由テーマ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					60%
	実習レポート	○	○				40%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病態学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。		
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。		
	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。		
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	細胞機能の基礎			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	2	病理学と疾患概念			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	3	内因と外因			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	4	細胞損傷と組織反応			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	5	損傷治癒			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	6	炎症と免疫			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	7	移植とアレルギー			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	8	再生医療 感染症			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	9	循環障害			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	10	代謝障害1			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	11	代謝障害2			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	12	先天異常			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	13	腫瘍1			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	14	腫瘍2			授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること		
	15	まとめ			本日の内容をもって国家試験対策に取り組む		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学						
科目名(英)	Psychiatry						
単位数	1	時間数	15時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	精神科クリニックにて医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、医療について、医療従事者として最低学ばなければならない事柄を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神疾患の分類と機能評価について概説できる。	
	○	○				三大精神病を概説できる。	
	○	○				発達障害について概説できる。	
	○	○				診断基準について概説できる。	
	○	○				器質性精神障害について概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、奈良 勲/鎌倉 矩子. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学. 参考文献:弘文堂 加藤 正明. 精神科ポケット辞典.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神疾患の分類と精神機能の評価			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	2	統合失調症			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	3	気分障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	4	心因性疾患(神経症・心因反応、心身反応を含む)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	5	生理的、行動の障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	6	器質性精神障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	7	発達障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	8	操作的診断			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	耳鼻咽喉科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	増田 孝		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	耳鼻咽喉科医院にて医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	言語聴覚士に必要な耳科学、鼻科学、咽喉科学、頭頸部外科学の知識を臨床的側面に重点を置いて理解してもらう。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				伝系の構造と機能を説明できる。	
	○	○				感音系の構造と機能を説明できる。	
	○	○				鼻・副鼻腔の構造と機能を説明できる。	
	○	○				耳鼻咽喉科関連の疾患を概説できる。	
	○	○				頭頸部外科の疾患と手術を概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、2010 鳥山稔(編)「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	外耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	2	中耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	3	中耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	4	内耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	5	内耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	6	内耳の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	7	外耳の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	8	中耳の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	9	中耳の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	10	内耳の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	11	内耳の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	12	鼻・副鼻腔の解剖、機能			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	13	鼻・副鼻腔の疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	14	頭頸部外科の解剖、疾患			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
15	まとめ			本日の内容を復習し国家試験対策を行う			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床神経科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、言語療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			中枢神経系疾患の病態、診断、治療について説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			覚醒下脳手術について説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			脳電気刺激法・脳磁気刺激法を使用した治療法について説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			基本的な神経学的検査について説明できる。		
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>					
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学 (補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症			教科書で予習しておく。		
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	認知症、記憶障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	神経内科における感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	形成外科学						
科目名(英)	Plastic Surgery						
単位数	1	時間数	15時間	担当者	大部 一成・川野 真太郎		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	顔面や皮膚の成り立ちと顔面・皮膚疾患について知るとともに、構音や摂食・嚥下の正常な状態を理解し、それらの病的な状態を把握できるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				顔面や皮膚の成り立ちを理解し説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、説明することができる。	
	○	○				顔面・皮膚疾患について理解し、摂食嚥下および構音への影響を説明することができる。	
	○	○				頭頸外科学手術について理解し、適用について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	学校で使用する口腔外科の本 参考文献:① 南山堂 TEXT形成外科学 ② 医学書院 標準形成外科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	形成外科総論			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	2	組織移植			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	3	外傷・熱傷・潰瘍			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	4	頭蓋、顔面の先天異常			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	5	瘢痕とケロイド			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	6	口唇裂・口蓋裂(1)			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	7	口唇裂・口蓋裂(2)			授業内容を再度まとめ、必要事項を繰り返し学習する(30分)		
	8	まとめ			講座全体を振り返り学習をする(2時間)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	平塚 正雄		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	歯科医師として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				歯科医学の概要について説明できる	
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。	
	○	○				臨床における検査および評価について概要を説明できる。	
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。	
						感染予防の理念を理解し、消毒・滅菌の方法および重要性を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」 インテルナ出版 言語聴覚士に必要な歯科の知識						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	2	歯・歯周の疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	5	口腔・顔面の異常			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	6	口腔・顎・顔面の外傷			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	7	口腔・顎の炎症			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	8	口腔粘膜の疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	9	口腔・顎領域の嚢胞			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	10	口腔・顎・顔面の腫瘍および類似疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	11	顎関節の疾患と唾液腺疾患			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	12	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	13	口腔の機能障害と検査および評価、消毒・滅菌法			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
	14	歯科・口腔外科の治療法および口腔ケア			教科書と配布プリントをもとに復習する(40分)		
15	まとめ			まとめの内容をもって国家試験対策に取り組む			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	呼吸発声発語系医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	灘吉 享子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	言語聴覚士に必要な呼吸機能に関わる、解剖の知識を修得し、そのメカニズムについて結びつけることができる。そして、基本的な意識をもって、呼吸リハビリテーションについて考える基礎をつくる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				呼吸器系の基本構造と機能が説明できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の名称を列挙できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の特徴を概説できる。	
	○	○				呼吸器系の疾患の特徴を概説できる。	
			○	○		サンプルCD聴取によりそれぞれの疾患の症状がイメージできる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 医学書院 言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版 参考書: 医歯薬出版株式会社 言語聴覚士テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	呼吸発声発語概要と呼吸器系の基本構造			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	2	呼吸器系の呼吸運動について			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	3	呼吸器の解剖と検査			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	4	呼吸訓練の実際			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	5	喉頭の基本構造			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	6	喉頭の機能			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	7	喉頭の検査			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	8	構音器官の基本構造			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	9	構音器官の機能			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	10	1～9のまとめテスト/国家試験問題			解説づくりをする(30分)		
	11	疾患(呼吸器)			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	12	疾患(喉頭)/サンプルCDの聴取			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	13	疾患(付属管腔)/サンプルCDの聴取			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
	14	症例検討			教科書・配布プリントをもとに復習する。小テストへの取り組みを行う。(30分)		
15	10～13のまとめテスト/国家試験問題			解説づくりをする(30分)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する(3)レポート課題をもとめる 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	○	○				15%
	宿題・レポート		○		○		10%
	質問・取り組み				○	○	5%
履修上の注意							

科目名	生涯発達心理学の演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子を理解する。 保育所見学で実際の子どもの様子を観察し、発達表を作成する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				乳幼児の発達検査、スクリーニングの特徴を述べることができる	
		○				遠城寺式乳幼児発達検査表、言語発達尺度における各年代の発達の特徴を説明できる	
		○		○		保育所見学で観察した子どもの様子をもとに、オリジナルの発達表を作成できる	
テキスト・教材 参考図書	資料を配布						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	乳幼児期の発達 (発達のみちすじ)			前期の生涯発達心理学のテキストを読み返しておくこと(60分)		
	2	遠城寺式乳幼児発達検査表			Formsで振り返り課題を実施(30分)		
	3	言語発達尺度(基礎項目、言語理解、言語表出)			Formsで振り返り課題を実施(30分)		
	4	言語発達尺度を基に保育所見学の観察ポイント作成			Formsで振り返り課題を実施(30分)		
	5	保育所見学			オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)		
	6	保育所見学			オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)		
	7	保育所見学			オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)		
	8	グループ発表(オリジナル発達表について)			オリジナル発達表を班ごとに作成(30分)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)レポート(オリジナル発達表)を作成し提出する。(2)クラッシーで振り返り課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート(オリジナル発達表作成)	○	◎		○		70%
	Forms振り返り課題	○	◎		○		30%
履修上の注意	前期の生涯発達心理学の理論を復習してから、授業を受けてください。						

科目名	応用音声学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	今村亜子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	施設に言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	私たちは、普段人と話をする最、「音声」を媒介にしてコミュニケーションを行っています。前期で学んだ音声学の基礎をふまえて、後期は特に音韻論の観点から日本語の音声を考えていきます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚士の臨床と音声の関りを説明することができる。	
	○	○				音声の構造について説明することができる。	
	○	○				アクセント、イントネーションについて説明することができる。	
	○	○				音声の知覚について説明することができる。	
						感染予防の理念を理解し、消毒・滅菌の方法および重要性を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	東京:医学書院 今泉 敏 言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」 東京:三省堂 斉藤純男 日本語音声学入門(改訂版)」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声学と臨床:ことばのくさりと音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	2	音声学と臨床:構音障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	3	音声学と臨床:音声障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	4	音声学と臨床:流暢性の障害と音声学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	5	音素という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	6	最小対と相補分布という概念を理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	7	単音(分節音)より大きな音の単位であるモーラを理解する。特殊モーラを理解する。				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	8	モーラより大きな音の単位である音節と、音節構造について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	9	超分節的特徴について理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	10	日本語のアクセントについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	11	イントネーションについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	12	リズム、ポーズ、プロミネンスについて理解する				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	13	音響音声学(母音と子音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
	14	聴覚音声学(音声の知覚)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)	
15	全体のまとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	聴覚心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	藤井 忍		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	音響学における音響心理の基礎的事項を学ぶと共に聴覚の役割を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				音の要素について説明することができる。	
	○	○				弁別閾について説明することができる。	
	○	○				音の大きさの知覚について説明することができる。	
	○	○				音の高さの知覚について説明することができる。	
	○	○				マスキング及び臨界帯域幅について説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:講談社、2014 青木直史「ゼロからはじめる音響学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	音の三要素、聴覚閾値			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。(30分)		
	2	ウェーバ・フェヒナーの法則、音の大きさの知覚、			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	3	等ラウドネス、ソーン尺度			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	4	音の高さの知覚、メル尺度			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	5	場所ピッチ、時間ピッチ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	6	マスキング、臨界帯域、聴覚フィルター			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	7	両耳聴、方向知覚			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	8	MLD、先行音効果			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を予習しておく。(30分)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の基本手概念について説明できる	
	○	○				言語発達の各期の概要について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語発達の基本的概念（言語発達と脳の発達、臨界期）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	2	言語発達の基本的概念（言語獲得と聴覚系・発声発語系の関連）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	3	言語発達の基本的概念（コミュニケーション、語音認知、構音の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	4	言語発達の基本的概念（語彙、統語、語用、読み書きの発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	5	言語発達の基本的概念（言語獲得理論）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	6	前言語期の発達（音声知覚と音声表出）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	7	前言語期の発達（コミュニケーション能力の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	8	幼児期前半の言語発達（音声知覚と音声表出）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	9	幼児期前半の言語発達（コミュニケーション能力の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	10	幼児期後半の言語発達（言語理解の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	11	幼児期後半の言語発達（言語表出の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	12	児童期の言語発達（言語理解、言語表出の発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	13	児童期の言語発達（読み書きの発達）			Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	14	老年期の言語（加齢と言語機能の関係）			Formsで振り返り課題を実施 定期試験対策(60分)		
15	まとめ（定期試験対策シートの作成）			授業内評価の振り返り(60分)			
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)各段階が終了した時点で単元テストを実施する (3)定期試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				30%
	単元テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	失語・高次脳機能障害の展開総論						
科目名(英)	Deployment of Aphasia and Higher brain dysfunction General remarks						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	失語症と高次脳機能障害の評価や訓練に関する基礎知識を習得する。 失語症や高次脳機能障害のリハビリテーションにおける職種連携について学ぶ。 失語症や高次脳機能障害関連の文献抄読を通して、言語聴覚療法における訓練・指導・支援や地域社会との かかわりについて考える。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				失語症と高次脳機能障害の評価の目的や評価の流れについて説明できる。	
	○	○				失語症と高次脳機能障害の評価の際に収集する情報や検査方法を挙げることができる。	
	○	○		○		失語症と高次脳機能障害のリハビリテーションについて、関連の文献を検索し、概要を説明できる。	
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:文光堂 2015 網本和 高次脳機能障害ABC、医学書院 2021 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 失語症 参考図書:秀和システム 2012 和田義明 やさしくわかる 高次脳機能障害 医学書院 2021 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語聴覚療法の評価の目的と流れ				テキストの該当項を30分読んでおく。	
	2	失語症 高次脳機能障害の評価の原則				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	3	関連障害の評価や対応法について				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	4	情報収集の種類				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	5	情報収集 観察の方法				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	6	言語面の情報 スクリーニング検査				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	7	言語面の情報 掘り下げ検査				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 中間期の小テストを実施するので、復習しておく	
	8	情報収集 医学面 社会面 関連情報について				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	9	情報の統合 評価のまとめ				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	10	問題点の抽出と目標設定				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	11	失語症と高次脳機能障害 言語聴覚療法の理論と技法				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	12	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 訓練から支援				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく	
	13	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 地域との連携				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。	
	14	失語症と高次脳機能障害のリハビリテーション 症例検討				資料、テキストの該当項を30分復習しておく。	
15	まとめ				定期試験に向け、資料、テキスト、小テストの内容を 30分確認し、復習しておく		
評価方法	(1)授業の中で小テスト1回(中間期)、クラッシーを10回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト・クラッシー	○	○		○		20%
レポート・発表	○	○		○		10%	
履修上の注意							

科目名	発達障害・SLIの理解										
科目名(英)											
単位数	1	時間数	15時間	担当者	永野 淳子						
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務						
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年										
授業概要	発達障害(自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠如/多動性障害)、特異的言語発達障害の基本的概念と知識を習得する。 自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害のそれぞれの関連を学ぶ。										
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の定義を説明できる					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の診断基準を説明できる					
	○	○				自閉症スペクトラム障害・学習障害・注意欠如/多動性障害、特異的言語発達障害の症状を説明できる					
	○	○		○		各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる					
	○	○		○		当事者、家族、関係者の心理を概説できる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	発達障害の定義					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	2	発達障害の診断基準(DSM-5、ICD-11)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	3	発達障害の言語領域の症状(語彙・文法、コミュニケーション)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	4	発達障害の言語領域の症状(発声発語、読み書き、認知)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	5	特異的言語発達障害の概要(定義と診断基準)					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	6	特異的言語発達障害の言語領域の症状					該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと				
	7	当事者、家族、関係者の心理の理解					事例検討資料の作成(60分)				
	8	授業内のワークシートを作成/国家試験過去問題					国試問題の調べ学習を行う(90分)				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
15											
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)事例検討課題(レポート)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				70%				
	レポート(事例検討)	○	◎		◎		30%				
履修上の注意											

科目名	小児聴覚障害の診断						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	井上康子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設に言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		コミュニケーションモードについて説明できる	
	○	○		△		発達段階に応じた聴覚検査を選択できる	
	○	○		△		聴覚検査の手順を説明できる	
	○	○		△		本人・家族に評価結果を説明する方法を示すことができる	
	○	○		△		模擬ケースカンファレンスで報告する内容を示し、模擬的に報告できる	
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ5 改定 聴覚障害Ⅰ-基礎編 建帛社 言語聴覚療法シリーズ6 改定 聴覚障害Ⅱ-臨床編 南山堂 聴覚検査の実際 改訂 3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	聴覚障害児をめぐる社会的文化的背景や医療福祉教育の歴史			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	2	コミュニケーションモード			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	3	乳幼児聴覚検査			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	4	聴覚評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	5	言語発達評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	6	コミュニケーション発達評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	7	認知、社会性、情緒評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	8	面接評価			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	9	評価演習			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	10	情報の分析、統合、解釈			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	11	聴覚保証機器の適応と訓練の適応			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
	12	評価サマリの作成			評価サマリを作成する(1時間)		
	13	統合と分析、治療計画の作成			治療計画を作成する(1時間)		
	14	ケースカンファレンス			授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)		
15	まとめ			本日のまとめをもって国家試験対策に取り組む			
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	宿題・レポート				○		30%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高津原 直樹		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚療法の実際を理解するために、病院見学や演習を通して臨床での言語聴覚士の仕事を学ぶ。 ・言語聴覚療法の臨床現場の概要について学び、STの役割を説明できるようになる。 ・1日見学を通して、観察した事項を文章表現できる。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚療法の臨床現場の概要を学び、その体系を理解することができる	
	○	○				臨床現場に関する言語聴覚士の役割を理解することができる	
		○	○			見学内容を言語聴覚療法と関連付けて理解することができる	
	○	○				観察した内容を言語聴覚療法と関連付けて説明することができる	
			○			安全に配慮して見学を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	医歯薬出版 言語聴覚士テキスト 第2版 医歯薬出版 新編言語治療マニュアル						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	飯塚病院グループ見学事前オリエンテーション			配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	飯塚病院グループ見学			配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。オリエンテーションの内容を復習し確認しておくこと。		
	3	飯塚病院グループ見学			配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。レポート作成準備		
	4	飯塚病院グループ見学後セミナー			見学資料を復習し確認しておくこと。レポート作成課題		
	5	演習 挨拶 電話連絡 施設内での振る舞い			配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。演習内容を再度行うこと。		
	6	演習 実習でのコミュニケーション			演習内容を復習しておく。演習結果をまとめ、レポートを作成する。		
	7	1日見学実習事前セミナー①			配布資料の該当範囲を事前に読んでおくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。		
	8	1日見学実習事前セミナー②			配布資料の疑問を整理しておくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。		
	9	1日見学実習事前セミナー③			見学施設に関する疑問を整理しておくこと。1日見学実習前セミナーの内容について復習しておくこと。		
	10	1日見学実習			見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。		
	11	1日見学実習			見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。		
	12	1日見学実習			見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。		
	13	1日見学実習			見学施設に関する情報を確認しておく。見学した内容を整理し、記録できるようにしておくこと。		
	14	1日見学実習および演習事後セミナー①			見学資料を復習し確認しておくこと。見学内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。		
15	1日見学実習および演習事後セミナー②			見学資料を復習し確認しておくこと。見学内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。			
評価方法	飯塚病院グループ見学後および1日見学実習後にそれぞれレポートを提出。その他、締切の遵守や未提出の有無など、態度・意欲面も評価に加える。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○			○		100%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	地域リハビリテーション論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部 1年						
授業概要	2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が進められている。地域言語聴覚療法を行う上での言語聴覚障害および言語聴覚臨床の基礎となる社会福祉、リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					リハビリテーションの理念と概念について説明できる	
	○					リハビリテーションの領域について説明することができる	
	○					地域リハビリテーションの社会的背景と意義を説明できる。	
	○	○		○		地域リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、2019 藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションのイメージを共有			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	2	リハビリテーションの理念と概念、歴史			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	3	リハビリテーションの領域			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	4	地域リハビリテーションの社会的背景と意義			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	5	地域言語聴覚療法の特徴			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	6	地域言語聴覚療法を支えるシステムと制度			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	7	地域言語聴覚療法の展開の基礎			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	8	地域ケア会議について			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	宿題・レポート				○		40%
履修上の注意							